

## 奇形の発生頻度に関する研究

一 宮崎県下の病院での奇形発生頻度の研究 一

(分担研究：先天異常のモニタリングと対策に関する研究)

早川国男 大堂庄三 園田徹 大庭健一

**要約** 平成元年12月に研究班に参加後、神奈川県における調査用紙にならった大奇形の調査用紙と、客観的に判断が容易な小奇形（71項目）の調査用紙を作成した。その後、平成2年2月1日より宮崎医科大学と県下の2産婦人科病院で調査を開始した。

平成2年4月1日から、宮崎県の2公立病院と宮崎市内の2産婦人科病院についての調査協力の許可をいただいております、調査開始の予定である。

**見出し語**：奇形の頻度、小奇形、催奇形因子

**研究目的**：1. 宮崎県下での奇形の発生頻度を知る。  
2. 胎児がさらされている環境要因を知る。  
3. 妊婦の異常（疾病）の頻度とそれらの胎児への影響を知る。

**結果**：平成2年2月1日より調査を開始したばかりであり、いまだ結果を出すまでには至っていない。2月1日より調査を開始した産科での全出生数は、年間約1,100程度である。平成2年4月1日より調査施設数を漸次増加する計画である。

**研究方法**：対照とした産科で出産するすべての妊婦について、先方視的に一定の様式にしたがって家族歴・妊娠歴を聴取する。

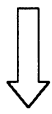
これらの産科で出生した全症例の外表奇形を診察する。

---

\*宮崎医科大学小児科 (Department of Pediatrics, Miyazaki Medical College)



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 平成元年 12 月に研究班に参加後、神奈川県における調査用紙にならった大奇形の調査用紙と、客観的に判断が容易な小奇形(71 項目)の調査用紙を作成した。その後、平成 2 年 2 月 1 日より宮崎医科大学と県下の 2 産婦人科病院で調査を開始した。

平成 2 年 4 月 1 日から、宮崎県の 2 公立病院と宮崎市内の 2 産婦人科病院についての調査協力の許可をいただいております、調査開始の予定である。